KSKS

花の会ニュース

２０２２年７月号
no.193

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB　https://hananokai.info/　★E-mail　hana-net@minos.ocn.ne.jp

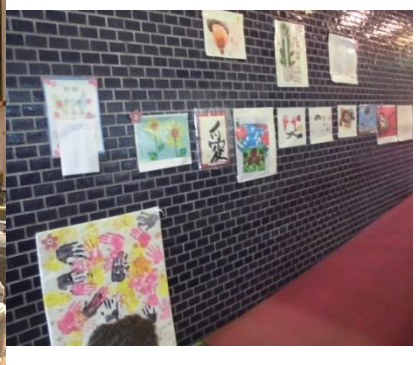
２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２-２　東興ビル４階　定価１００円

第 39 回花の会総会を開催しました！

2022 年６月 25 日（土）に 高槻現代劇場大ホールで３年ぶりに花の会総会を開催しました。コロナ対策で、大きな会場での総会でした。久しぶりに顔を合わせて、会員の皆さんとお話できました。

2023 年４月に「花の会」は、「花の会後援会」と統合します。これからも一致団結して困難を乗り越えましょう！

第 12 回花の会作品展の入賞作品を展示、表彰式を行いました。



金賞　「かお」　小沼 誠さん

「関係の創造」という教育思想

前回、関学の桜井智恵子さんの講演会（３月）に触れた。その後、教育ということが気がかりとなっていた。そんな時、久米祐子さんの『子どもから障害児を「分けない教育」の戦後史』が出版され、柿のたね（東京の団体）の千田好夫さんがニュースに学校長協会編の『「通級による指導」における自立活動の実際』に対する批判的な書評が掲載された。

篠原睦治さんは『「障害児の教育権」思想批判』を1986年に発刊し、サブタイトルは「関係の創造か、発達の保障か」であった。最近になって、「発達保障」という主張を、知っているか職員に尋ねた。「何？それ」という反応であった。そんな時代になったのか、というより、何を伝えてきたのか、伝わっていないのか、反省しきりである。

1979年「養護学校の義務化」においては、「能力主義的分断の強制」が強力に進められただけでなく、「能力・特性に応じた教育権保障・発達保障という“革新的”教育思想」によってもそれは推し進められた。現在の特別支援教育、インクルージョン教育システムと呼ばれる文科省の主張に繋がっている。当時、義務化に反対し、地域の学校へ、がスローガンであったが、先の「関係の創造」という「みんなちがって　みんないっしょ」という「分けない教育」の本当の意味が、薄らいでしまったのか心配である。

かつて、ある専門学校で「知的障害児が普通高校を受験する」ことの是非を聞いたことがある。ほとんどが「解らないのに進学しても意味がない」という立場での発言であった。教育権の話までもいかず絶句となった。今も、そんなに変わっていないのだろうけれど、個別支援に名を借りた分離教育、事業所の現場では作業訓練が続けられている。この連鎖を何としても地域から、学校から、変えていく取り組みが急務である。自身の変革も含め。

（やまだのかかし）

「地域で暮らす」

入谷 浩司さんご家族
フラワーホーム「ほうれん荘」

入谷 浩司さんのプロフィール

- 1969 年生まれ　53 歳
- 地元の小・中学校から高槻養護学校（現支援学校）を卒業後、他法人の生活介護事業所を利用。
- 2008 年７月から社会福祉法人花の会のフラワーホーム「ほうれん荘」に入居しています。

入谷さんご家族のプロフィール

フラワーホーム「ほうれん荘」に入居する入谷浩司さんのお母様。2008 年から花の会に参加されています。花の会参加以前にも、親の会で活動され、現在の花の会のメンバーとも当時から交流がありました。

質問：入谷さんの子どもの頃の様子をお聞かせください。

答（お母様）：小さい時からにぎやかでマイペースで変わっていない。市内の療育園に通っていた頃は２年制だったが、卒業してから３年制になったと思う。２年目から送迎が出るようになった。西武（現高槻阪急百貨店）まで送って行ったけれど、安岡寺のあたりまで送迎が出ていた。とにかく、乗り物が好きで、飛行機なんかは特に、YS―11という飛行機が好きで、今は飛んでないけれど、伊丹、関空には移動支援を利用してよく行く。フェリーも好き。竹生島行きや神戸に乗りに行ってた。幼い頃から好きだった。

小学１年生の時に障害児のカブスカウトがあった。カブスカウトでは長居で常陸宮が来られていて「馬に乗るのは初めて」と声をかけていただいた。小さい頃からいろいろなことをやらせていた。お盆過ぎから、琵琶湖へ泊まりに行っていた。その参加者に、今の花の会のメンバーも何人かいてた。高校に通ってからもずっと一緒に泊まりに行っていた。今は花の会以外の法人の事業所に通っている人も一緒に行ってた。小学４年生からは、サッカーをしていた。サッカーでは親もついていくし、静岡や宇部の方へ行った。中学校でもサッカーはしていた。六甲の人工スキー場にも行った。日帰りバスでヘリコプターに乗りに行こうって言って乗ったこともあった。怖がって乗らへんと言ったので、乗らな帰られへんと言って乗せた。午前中は嵐山の屋形船で、昼から宇治の方でヘリコプター。「怖いわ。怖いわ。」と言っていたが、乗ったらそうでもない。「お母さん、京都タワーやで」と本人はよかったんじゃないかな。本人は楽しかったと思うけど、親はしんどかった。

映画も連れて行った。最初に見たのはロボコンで、センター街のパチンコ屋の上にある映画館で見た。親も一緒になって見るけど、同じお金を払って親は寝てた。もったいない（笑）。今度は梅田で洋画。字幕は出るけどわからない。最初は浩司が好きなラッシー、下の子が好きなスターウォーズ。最後に見たのは南極物語。これは高槻で見た。本人にしたら、よかったんじゃないかな。親はしんどいんです。

小学校くらいがよかったんじゃないかな。養護学級に入学する頃に、特別学級が校区の小学校にできた。弟がいたので、住んでいる校区の小学校に入学したけど、先生が１人ついてくれていた。比較的軽い障害を持った子が上級生にも２人くらいいた。下級生にも３人くらいいた。通学路の半分が田んぼ道で、学校から電話がかかってくるの。「浩司君は何時に出ましたか」と聞かれて、「いつ

も通り出ました。」と答えたら、「まだ来ないんです」って言われて、ちょっとしたらまた電話がかかってきて「今来たんです。両手にカエルをいっぱい持って」って言われて。帰りも両手にカエルをいっぱい捕まえて持って帰るんです。それで私は次の日になったら逃がすんです（笑）。不思議なんかな？ほっぺが膨れたり、おなかが膨れたり。あの子にしたら、わりと面白かったんかな。

質問：養護学校卒業後はどのように過ごされましたか？

答（お母様）：親の会が作業所を立ち上げて通っていた。横山さんがいて、今の花の会のメンバー、花の会以外の法人を利用している人も同期で一緒だった。６人か７人いた。８年くらい行っていた。作業所ができた次の年に二つ目の作業所ができた。今は親の会の作業所はない。行くところがなかったので、無認可で親が立ち上げたが、今は選べるようになっている。今の人は幸せといえば幸せやね。「花の会」は「つきの木」の裏でやっていたでしょ。魚の形の醤油入れを作ってたのをその時に見に行ったことがあった。その後で、現在利用している生活介護事業所に通うことになった。

質問：グループホームを利用して、お母さんに不安はなかったですか？

答（お母様）：練習しぃやって言われて、「ほうれん荘」を利用する前に短期入所を利用して１泊だけ泊まった。その前にも中学の時に朝日新聞のキャンプに応募して行った。和歌山県で４泊。親の会ではキャンピングに行ってたけど、一人では朝日新聞のキャンプが初めて。サークルとか親以外との泊まりは行かせていた。「ほうれん荘」に入った時から、嫌がりはしなかった。楽しいって言っていた。親も不安はなかった。私が、世話人は優しいか聞くと「優しいよ！」と答えていた。ホームではビデオばっかり。演歌の花道とかかな。家に置いていた珊瑚のビデオを持って行ってる。私が怒ったら「お母さん怒ったら入谷怖がるで」と答える。時々変わった言葉を使う。「とりあえず」とか「とにかく」とか誰が使うのか…。家ではそんなん言ってない（笑）。

質問：ご家族から見て、ホームでの生活はどのように感じていますか？

答（お母様）：家とホームの生活は分けている。家だったら、船とかのパンフレットをようけ持って来て白い紙に貼っていっぱい書く。ホームにハサミを持って行ったがやらなかった。家だったら広げられるけど、ホームでは片付けないといけないので面倒くさいのかもしれない。

この間 JR の改札前で浩司に会った。「どこ行くんや？」と聞くと JR のチラシを取りに行っていた。リュックを通路の端に寄せて、置いていて、持っていなかった。その日は６時 50 分頃にホームを出てチラシを探していたようで、どうにかしたいので、同居しているメンバーと一緒に出発するように言った。一人で早くいくなら、早く出て徒歩通所しているメンバーと一緒に歩くように言うと収まった。帰宅した時は、チラシを持って来たのがばれないように、いったん自室に戻ってからチラシを置いてリュックを持って来る。

「月曜日泊まり、火曜日泊まり、水曜日泊まり」と言うので、「金曜日泊まり（毎週帰宅している）」と言うと、「金曜日は帰る」と言っている。「行かへん」とは言わないので、楽しいと思う。ホームでは食事の準備を手伝ったりしているが、自宅ではしない。下膳をして漬けるだけ漬けている。洗濯もしないが、ホームではしている。洗濯物は取り入れてくれる。３時になったら取り入れる。雨の日は窓を閉める。降ったりやんだりになるとその都度開け閉めする。家ではロボット掃除機で掃除をさせる。終わったら「ようがんばってくれました。」と言って、私にも言えと言う。帰って来たら必ずする。面白いんかな？

「ほうれん荘」を利用して丸 14 年経ち、15 年目になるけれど、洗濯物が乾いてないのに取り込んでいるので、箪笥が痛まないように、ケースを一つ持って帰った。ここはどうにかしてほしい。本人は結構喜んで行っている。

（取材：フラワーホーム　徳野　裕季・座古　修）

教えて！　仕事のはなし

田 村 様 ：就労継続支援Ｂ型事業所　わたぼうし高槻（喫茶たんぽぽ）　メンバー
加 藤 様 ：就労継続支援Ｂ型事業所　わたぼうし高槻（喫茶たんぽぽ）　管理者

わたぼうし高槻　管理者　加藤様

わたぼうし高槻　利用者　田村様

現在、障がい者就業・生活支援センターに来所される登録者には、多様性のある働き方を希望されるご相談が増えております。

そこで今回の取材では、『わたぼうし高槻　喫茶たんぽぽ（就労継続支援Ｂ型※）』で活躍されております、メンバーの田村様と管理者の加藤様に『喫茶たんぽぽ』でのお仕事についてお話を伺いました。

ゆう・あいセンター
（高槻市立障がい者福祉センター）

※就労継続支援Ｂ型

通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供。その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。

Q「喫茶たんぽぽ」はどのようなところですか？

加藤：私たちは就労継続支援Ｂ型事業所でございまして、主に障害のある方の支援をしております。事業の内容としては、喫茶業務と企業の内職作業などをして、利用者の支援に当たっております。

まずは、その方のできることから始めていただくということで、一人ひとりに目標を持っていただきます。その目標に向かって少しずつステップアップしてもらうために、私たち（支援員）が支援をしていくところになります。

Q「喫茶たんぽぽ」は、いつ頃から利用されていますか？

田村：2018 年から「喫茶たんぽぽ」を利用しています。もう３年ぐらいになります。

Q「喫茶たんぽぽ」に決めた理由を教えてください。

田村：メンバーが少ないということで、落ち着いて作業ができると思って決めました。今は人数も増えてきて、全員で 12 名になりました。

Q「喫茶たんぽぽ」を利用するまでの流れはありますか？

加藤：まずは見学をしていただいて、興味を持っていただくということから始めていただきます。それから実習をしていただいて、お互い（喫茶たんぽぽとご本人）が仕事を知ったり、メンバーのことを知っていただき、ここで利用ができるのではないかと確信を持っていただいて、それから利用を決めていただくという流れになっております。

Q「喫茶たんぽぽ」の雰囲気はどうですか?

田村：今は賑やかな雰囲気です。

みんなとワイワイしていることが楽しいです。絵

を描いたり、折り紙で箸入れを制作する際にメンバーと話をしたりしているのが楽しいです。

今はメンバー同士で慣れてきたのですが、たまに合わないメンバーもいていろいろありますが、がんばって仕事ができています。

Q「喫茶たんぽぽ」での仕事を教えてください。

田村：調理の仕事をしています。味噌汁を作ったり、油で唐揚げを揚げる作業をしています。

Q調理は昔から好きだったのですか?

田村：昔は得意ではなかったのですが、家で調理をすると“楽しいなぁ”と思って、調理をしているＢ型（の事業所）を紹介されたので、「喫茶たんぽぽ」に決めました。

Q家で料理のお手伝いとかはしますか？

田村：お母さんに手伝ってと言われたら、味噌汁を作ったり、お米を炊いたりはしています。

Q田村さんに利用してもらおうと思ったきっかけはありますか？

加藤：田村さんは、元々喫茶業務に興味があったということを聞いておりまして、ご家庭でもお母さんの手伝いとか進んでやられるということを聞いておりました。また体験では、喫茶の仕事を楽しくやっていましたので、「喫茶たんぽぽ」でなら大丈夫かなと思ったのと、戦力になってくれるのかと感じましたので、利用してもらうことに決めました。

Qこれから働く方、働きたいと考えている方にアドバイスがあれば教えてください。

田村：わからない時や困った時は、スタッフに確認をすることは大事になります。相談するとスッキリすることもあるので、相談はしておくことが大事だと思います。

Qお休みの日は何をして過ごしてますか？

田村：お母さんと買い物に行ったりしています。

自分で稼いだ工賃で、好きなアイドルのDVDなどを買ったりしています。

Qお仕事以外で、最近好きなことはありますか？

田村：手話ですかね。週１回手話の教室に通っています。

「喫茶たんぽぽ」を利用されている聴覚障害の方がお店にいらっしゃるので、会話ができるようにと思って通い始めました。

Q手話サークルを利用して、どのような言葉を覚えましたか。

田村：ホットコーヒーとかアイスコーヒーの注文が入ったら、手話を使って接客ができるようなりました。

Qこれからの目標などはありますか？

田村：「喫茶たんぽぽ」で料理をしながら、手話を使っていろいろなお客様に対応できるようになれたらと思います。

Q「喫茶たんぽぽ」として、今後田村さんにどのようになってほしいですか？

加藤：今手話に興味があるということで、いろんなお客様の対応ができるようなスタッフになっていただきたいです。そして、できないこともできるようになっていただいて、もっと上を目指してほしいと思っております。

●「わたぼうし高槻」はどんなところ？

「わたぼうし高槻」は、城南町に事業所があり「喫茶たんぽぽ」はその出張所としてゆうあいセンター１階で活動を行っております。「喫茶たんぽぽ」は、元々、高障連※がゆうあいセンター開設時より、独自事業として「働く場」（みんな給料が同じ）としてボランティア等の支援を得て運営され、2017年より就労継続支援Ｂ型事業所として活動し、通所されるメンバーが働くための訓練を行っております。訓練については、喫茶業務として、料理を作ったりコーヒーを淹れたり、接客、配達、レジ、宣伝などの作業訓練を通じて、地域に溶け込みメンバーの自立や社会参加へのサポートを行っている事業所になります。

※高槻障害児者団体連絡協議会

（取材：高槻市障がい者就業・生活支援センター　古園　芳樹）

職員の声・支援への思い

鹿子　恵美さん
共働舎花の会　支援員

鹿子 恵美さんのプロフィール

- 共働舎花の会　支援員
- 花の会入職８年目。福祉職歴は 14 年目。
- 今年度はメンバーの支援に加え、車両関係や行事等の取りまとめも担当されています。
- 現在 25 歳・20 歳・17 歳のお子さんがいらっしゃいます。

職員へのインタビュー、第３回目となる今回は、３人の男の子の子育てをしつつ、支援員として活躍されてきた鹿子さんにお話を伺いました。

Q花の会入職のきっかけを教えてください。

鹿子：ここに来る前は、別の法人の多機能作業所でパートとして働いていたんです。５年くらい働いていたんですが、ずっとパートやったんですよね。「もう少しスキルアップしたいな」という気持ちがあったけど、パートから上にあがるチャンスがなかなかなくて。あと、子どものライフステージというか、小学校から中学校にあがるタイミングも合って、「ちょっと違うとこを探そう」と思った時に、たまたま花の会の求人を見付けて…という感じですね。

Qなぜ障害福祉分野で働こうと思ったんですか？

鹿子：実はうちは次男がダウン症なんです。ちょうど次男が小学校１年生にあがったばっかりの時に、「この子はどうやって大きくなっていくんかな」って思ったんですよね。「どういう道をたどって大きくなっていくんかな」って。そういう情報が全然自分に無かったので、知りたいなと思ったのが作業所に応募した最初のきっかけでした。次男が大きくなっていく中で、どういう力がいるのかな？どういう力を今つけておいたらいいんかな？…っていう、母親としての目的が最初は大きかったです。

でも、そうやってお仕事を選んで、最初に考えていた目的…［息子のために情報を集めたい］っていうのは、達成できたかは分からないです。仕事をしていく中で、目的がだんだん自分の中で変わっていきましたので。

［息子のための情報収集］じゃないところにやりがいを感じ始めたというか…、何か引き込まれる・一生懸命になりたくなる、というものがあったな、と思います。

Q現在の鹿子さんにとっての、仕事のやりがいは何でしょう？

鹿子：言葉で語ると、何だかすごいきれいごとの感じがするんですけど…。例えばあるメンバーが「今日は作業場に行きたくない！」ってなってる時に、私は「こういう風に声を掛けてみたら、今のしんどい状況から気持ちが切り替えられるかな」って予想しながら声を掛けたりするんですけど、その予想がばっちりはまったりする時があるんですね。自分の声掛けが、メンバーの気持ちを切り替えるきっかけになったというか。

そういう瞬間はすごく気持ち良いですね。普段メンバーと接する中でそういうことがあると、自分の中でも成功体験になっているというか…、自信が付いてくる感じがするし、楽しいって思います。

あと、共働舎花の会って生産活動にも一生懸命力を入れてやっているんですが、私は花の会に来てから、ずっと屋上菜園の担当をしていたんです。私には菜園担当っていうのも、すごく合っていま

した。野菜を作るのも楽しいし、自分の働きかけで相手の変化が見れることもすごく嬉しいなって思います。

仕事しんどいな…って思っていても、屋上でみんなでわーわー言いながら野菜を育てていたら、しんどいことも忘れるというか…、最初が屋上菜園担当じゃなかったら、ここまで続けられていなかったかもしれないです。

ちなみに屋上菜園は去年で卒業して、今年度からは［さをり］の担当になっています。また新しい挑戦ができることにワクワクしています。

Q お子さんが３人いらっしゃるという話も伺いましたが、お母さん業務とお仕事の両立で心掛けてることはありますか。

鹿子：何やろ…、うーん。開き直り？

両方できていて両立、じゃないですか。なので両立はできていないと思っています。「だってできひんもーん」の精神ですね。家では、そればっかり(笑)。「私できひんよ～、自分でやりや～」って言っても、子どもも別にやってはくれないんですけどね(笑)。

あんまり、お母さんががんばりすぎ・やりすぎると、子どももやらなくなるんで。親も適当に力が抜けてる方が子どもはしっかり育つんかなっていうのは思います。

多分そこらへんって、支援にも共通することかなって。

まぁ、支援はお仕事ですからもちろんしっかりやるんですけど、メンバーに頼ることとかも全然ありますよ。

Q お休みの日はどんな感じで過ごされていますか。

鹿子：はっきり言って休みの日は遊びに行ったりする元気はないです。

やっぱり平日あんまりまじめに家事ができていないので、お休みの日は、たまった家事を片付けて…っていう感じで終わることが多いです。基本引きこもってますね(笑)。

Q では、家事を片付けて、引きこもりながら何をしてる時が至福ですか？

鹿子：たまった録画の番組とかを見ながら寝落ちする瞬間かな(笑)。

アホみたいですけど、その瞬間が一番幸せかも。

Q 最後に、支援で大切にしていることを教えてください。

鹿子：何でしょうね…、「自分やったらどう思うかな」という感覚を持つこと、ですかね。自分のこととか、自分の家族のこととして置き換えて考えてみるというか。「自分の家族がこういう支援をされていたら、どう思うかな」っていうのは、「考えるようにしている」というより、いつも頭にありますね。

あとは、［明るく楽しく！］ですかね。自分が楽しくいよう、っていうのは心掛けているかもしれません。

支援というか、人と関わることって難しいな～と思いつつ、でもそこが魅力であったり、もうちょっとがんばりたいなって思えるところやったり…するんですかね。

後記

メンバーさんやご家族のことを自分のこととして考えている鹿子さんは、良い意味で「支援者感」のないワーカーさんでした。

私自身も「楽しいな」と思いながらお話を伺っていたのですが、きっとメンバーさんも、鹿子さんと話したり一緒に作業をしたりする時はそんな気持ちなんじゃないかな…と感じました。

（取材：田淵　彩子）

日中活動支援　生活介護

「ひらかた　くすの木」新施設竣工に向けて

今年度４月から、「ひらかた　くすの木」新築工事がスタートして３か月。

建設工事が始まるまでは、「なあなあ、新しいくすの木はいつできんの～」と聞いていたメンバーも、いざ、建設工事が始まると不思議なことに、何事もなかったかのように何も聞いてこなくなりました。

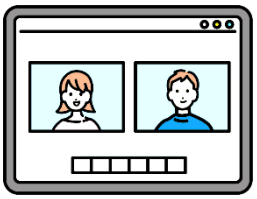
梅雨の時期に入りましたが、雨で工事が中断することもなく、工程通り順調に着工に向けて進んでいます。９月末の竣工後の移転に向けて、現「ひらかた　くすの木」の備品など整理をしつつ、新施設での運営に向けての準備も、ゆっくりではありますが進めています。

移転後には、新たな活動として、カフェコーナーや製菓製パン、シイタケ栽培などに取り組む予定です。今まで以上にメンバーの活動の幅が広がるよう、ワーカーみんなで協力しながら新しい「ひらかた　くすの木」が地域に溶け込んでいけるように、しっかりと活動をしていきたいと思います。

（ひらかた　くすの木　田中　弘樹）

「グループホーム・日中活動意見交換会」を開催しました

2022年６月３日、グループホーム・日中活動の職員意見交換会を実施しました。今年度は、日中ワーカー・グループホーム世話人合わせて約80名の参加となりました。コロナ禍での開催のため、４つの拠点（共働舎花の会、第２共働舎花の会、はなみずき、ぽこ）に分かれて集まり、拠点間をリモートで繋ぐという形式で行いました。近年、様々なイベントが中止となる中、他部署の職員と交流する機会が減っており、対面で話をするということがとても新鮮でした。



グループホーム毎にブースをおき、２部制でグループホーム・作業所でのメンバーの様子について、情報を共有しました。今年度入職した職員は、顔合わせをしながら、メンバーの意外な行動や知らなかった一面、お互いに工夫していることを知ることができました。

意見交換会の最後に、今年の３月に他界されたＫさんについての報告がありました。看取りに至った経過やＫさんとどのような思いで過ごしたのか、全職員が真剣な面持ちで聴いていたように思います。

メンバーとの別れはとても辛いものですが、私たちがメンバーのために何ができるのか、何をすればメンバーのためになるのかを考えて行動することの大切さを痛感しました。

今後もこの会議が、メンバーに関わる人々が“一緒に考えていく”という一つのツールとなり、『職員として何をすべきなのか』、自分を振り返る機会になってほしいと思います。

（共働舎花の会　大久保　美代子）

児童通所支援の報告

２年目の夏　新人職員の思い

あじさいクラブに来て２年目の夏を迎えました。去年の夏は、朝から来る子どもたちの対応、毎日のようにあるイベント・・必死で仕事をしていましたが、今では１日が慌ただしく過ぎるものの、その中で子ども一人ひとりとどれだけ関われるか、関わる中で今日はどんな発見があるかを楽しみに過ごせる余裕が、少しは出てきたと感じています。一緒に遊んだり、やり取りをするだけでも楽しいですが、その時その時で喜怒哀楽の顔（表情）が違ったり、反応に変化があると、「何かあったのかな？」と日々の関わりから新しい発見に繋がることもあり、子どもたちとの向き合い方も入職当初と比べると、見方や考え方も変わってきたと自覚しています。

自分自身が子育てをしてきたことは、仕事の中で活かせることも多く「こんな頃もあったな」「親御さんの気持ちも分かるなぁ」と思えることも多々あり、懇談の際には職員として、また同じ親としての気持ちを含めて話を聞いたり話をしたりしていることもあり、親御さんとの話の広がりにもなっています。また「子どもってこんな風に見ているんだな」と気付かされることもあり、ちょっとした言葉や表情、行動の一つひとつを大切に受け止め、支援へと繋げていかなければと思う時がたくさんあります。現在も長期休み期間中という長いようで短い１日の中で、普段は見られない子どもたちの一面を発見し、他の職員とも情報を共有し合い、今後の支援へと繋げたいです。

（あじさいクラブ　吉田　朋子）

研修報告「本人主体の支援を考える ～自分の気持ちを表出するのが難しい方への支援～」

花の会ニュース前号の紙面にて案内をさせていただいたオンライン研修会、「本人主体の支援を考える～自分の気持ちを表出するのが難しい方への支援～」と題し、行動障害を示す方の支援を通じて、当事者主体の支援の考え方、支援者として求められる視点をテーマに、水仙福祉会（アイ・サポート研究所）の岩崎先生と田代先生よりお話を伺いました。

たくさんの気付きの中で、私が特に印象に残ったことは、行動障害（極端な自信喪失も）が乳幼児、学齢期、成人期を通して人との関わりの中で、本人にとって不本意な経験が重なり、二次的・三次的に形成されるということです。人格が形成されていくこの大切な時期の支援が、とても重要なことを研修で再認識することができました。支援者としての自分を振り返り、常に「私がこの人だったら」と相手の立場に立って、本人の心に寄り添うことを意識して関わり、子どもたちとの関係をより良いものとし、「心の声」を受け止め、「心の支え」となる身近な人になれるよう頑張りたいと改めて思いました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン（zoom）での開催でしたが、花の会職員だけでなく一般の方、保護者の方も参加していただけるよう、公開研修会という形にしました。児童部門ではこのような機会がなかったので、参加していただいた方からご好評をいただきました。水仙福祉会の方には、今年度「本人主体の支援を考える」を引き続きテーマとし、研修会を実施いただく計画になっています。より具体的に、多くのエピソードを交えながら学びを深めていきたいと思います。

（あさがおクラブ　古谷　由紀子）

地域生活支援の報告

レスパイトに異動になりました！

私ごとで恐縮ですが、この度８年間お世話になったフラワーホームから、レスパイトに異動になりました。慣れ親しんだメンバーやご家族と離れるのは寂しい気持ちになってしまうのですが、ここは心機一転、新しい職場で頑張っていきたいと思います！

とはいうものの、レスパイトのことは何も知らない状態で異動してきましたので、戸惑うことばかりです。レスパイトは宿泊のできる施設なので、ホームと似ていると思われがちですが、実際には随分と違いがあって、正直面食らってます。何が違うかと言いますと、まずホームはメンバーの家であって、その中でどう過ごすのかは基本本人の自由であります。世話人は本人の意思を最大限尊重する支援を心掛けています。ではレスパイトはと言えば、こちらは一時的にお預かりする施設、ちょっと語弊があるかもしれませんがホテルのような感覚かなと思いました。となると施設内のルールが存在します。食事の時間が決まっていたり消灯時間があったり･･･。しかしネガティブに考える必要はありません。宿泊施設なのでルールはありますが、その分利用者さんに楽しんでいただく仕掛けは盛りだくさん。アニメを観たり音楽を聴いたりゲームをしたり、皆さん思い思いに時間を楽しんでおられます。季節になればホタルを見に行ったり花火をしたり、スタッフも楽しむための工夫には余念がありません。

「レスパイト」は「第２共働舎花の会」に併設されています。

そんなわけで、仕事に慣れるまでにはまだ時間がかかりそうですが、毎日楽しく過ごすことはできています。皆さんこれからよろしくお願いいたします！

（短期入所事業部（レスパイト）　橋本　好司）

喀痰吸引（かくたんきゅういん）の研修を受けて

メンバーの高齢化に伴い、医療や介護が必要になり、住み慣れたホームや通い慣れた日中での生活が送れなくなるメンバーを目の前にして、何かできる手段はないかと、日中とホームで喀痰吸引等研修を受講することになりました。私自身は、今後徐々にスタッフに資格を取得してもらうにあたって、管理職の自分もどのようなことを行うかをしっかり把握するべきという思いを持って、５月中旬から７月初旬まで約２か月かけて、毎週土曜日に研修を受けてきました。

口や鼻からの痰の吸引をするという認識でしたが、実際はのどや胃や腸に設置した器具を扱うなどかなり医療的作業が含まれていたので、命に係わる大変な資格だと感じました。勉強が進むにつれ、身体で起きうる不調の原因やその判断基準などがわかるようになり、それだけでも今後の支援に役立つと思いました。テキストの内容が難しいという印象よりも、実務研修の手順とセリフが決められていることが大きなハードルとなりました。しかし講師の有能さもあり、手順の意味合いや目的を理解することで乗り越えることができました。

今後は現場での実地テストとなりますが、自信よりも不安の方が大きい状態です。命に係わるミスが伴う処置ですので、今後も復習をしてしっかりと体に覚えさせて取り組もうと思っています。

（フラワーホーム　酒井　宏）

就労相談支援の報告

～相談支援員が花の会法人事業所に突撃取材～

『ひらかた くすの木』管理者 田中弘樹さん インタビュー

―― 花の会の一員となったきっかけを教えてください。

田中：２年前に枚方市社会福祉協議会から民間委託をすることとなり花の会に移管しました。

―― 移管に伴って、大変だったことはありますか？

田中：移管前の職員が複数辞めたことです。しかし一部ワーカーは残ったので、メンバーは安心できたと思います。

―― 今後の展開や現在の支援についてお聞かせください。

田中：新しい建物が今年９月頃に完成予定で、しいたけハウス、製菓、製パンの作業が増えます。支援では、昨年まで３班でしたが４月より２班編成とし、メンバーの皆さんが班を自由に行き来できるようにしました。担当制ではなく、どのワーカーでもメンバーと共に関われる環境となっています。

振り返り

堀本：利用者目線で凄く考えているなと思いましたし、２班を自由に行き来できるのは温かい支援と感じます。

澤田：庭が広くて運動に活用できるのが良いですね。疲れた時に外に出て気分転換にもなりますし。作業も楽しい。

杉山：そうですね。取材でも穏やかな雰囲気で心地良かった。メンバーがそう感じてられるからだと思います。そして、『共に』というキーワードが印象的でした。運営理念が他市に届くことも嬉しく思います。

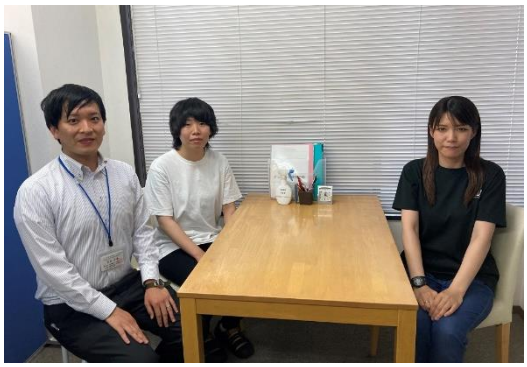
インタビュー・記事作成：相談支援センタースキップ・あじさい　杉山正人
写真撮影・助手・書記：相談支援センタースキップ　堀本圭佑・澤田結生

新しい職員を紹介します。

写真左＝太田 大樹さん

今年５月に入職しました、太田大樹と申します。障がい者就業・生活支援センター(就ポツ)に所属しております。

このたび、ご縁あって花の会で働かせていただくことになりました。まだまだ分からないことも多く、緊張の日々の連続ですが、温かな皆様と一緒に仕事をしています。これから責任ある仕事ができるよう精いっぱい努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。また、就ポツなどでお会いした際は、お話しできると嬉しく思っております。



写真中央＝澤田 結生さん

今年５月に相談支援センタースキップに入職しました澤田結生と申します。

相談員としての経験は浅いので、分からないことや戸惑うこともあるかと思いますがたくさんの事を学ばせていただき成長できればと考えています。皆さんからの相談事にしっかりと向き合っていきたいと思っております。皆さんの生活に寄り添った支援ができるように頑張りますので、よろしくお願いいたします。

写真右＝桑原 ひとみさん

はじめまして、桑原ひとみと申します。

以前は生活介護と就労継続支援Ｂ型のある施設で働いていました。今はワークたんぽぽで、メンバーと一緒にポップコーンを作ったり、授産品の作成や内職などの活動をしています。

ポップコーンやかりんとうは美味しくて、よく買って帰ります(笑)！

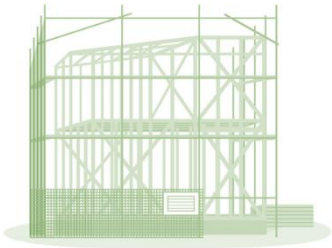
メンバーと職員が一丸となって、楽しくお仕事をしたいと思っています。よろしくお願いします。

法人の報告

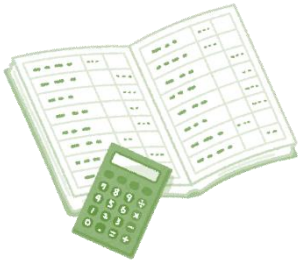
法人本部の事業報告

新型コロナウイルス感染症の拡大やロシアのウクライナ侵攻に伴う世界の急激な変動の中、府内のグループホームがマンション管理組合から追い出し訴訟を受けたり、厚労省が住居から訓練の場に制度変更を検討しているなど、権力による権利侵害を正当化しようとする危険な風潮が感じられた１年でした。

そのような中、昨年度に引き続き「キラッと輝く」をテーマに事業活動に取り組みました。職員全体会議で虐待防止宣言やハラスメント防止宣言を採択、ＩＣＴを活用して職員間のコミュニケーションの改善を行いました。また理事・監事・評議員の改選があり新体制の下、ひらかたくすの木の新築工事や梶原四丁目のグループホーム建設予定地の購入など、メンバーの生活基盤を支えるための投資を行いました。



本業の収益である、サービス活動収益は前年度決算から１３,３０１,６６０円増加の1,１６６,１２９,２４２円でしたが、費用は前年度決算から６０,６６１,１６２円増加の1,１８７,８１５,５１８円となり、２１,６８６,２７６円の赤字となりました。コロナ禍で支援費収入の伸びが低調であったことと、生活基盤を支える先行投資を行ったことが主な要因と考えられます。また人件費率が 80.7％と年々上昇しているため、改善が必要です。（業務執行理事 成瀬 修）



法人単位事業活動計算書

（自）2021年 4月 1日 （至）2022年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動	収益	サービス活動収益計(1)	1,166,129,242	1,152,827,582	13,301,660
	費用	サービス活動費用計(2)	1,187,815,518	1,127,154,356	60,661,162
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-21,686,276	25,673,226	-47,359,502
サービス活動外	収益	サービス活動外収益計(4)	19,092,564	16,139,275	2,953,289
	費用	サービス活動外費用計(5)	16,527,558	12,395,496	4,132,062
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	2,565,006	3,743,779	-1,178,773
		経常増減差額(7)=(3)+(6)	-19,121,270	29,417,005	-48,538,275
特別増減	収益	特別収益計(8)	8,656,796	72,456,181	-63,799,385
	費用	特別費用計(9)	7,567,528	72,983,733	-65,416,205
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	1,089,268	-527,552	1,616,820
		当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	-18,032,002	28,889,453	-46,921,455
繰越活動増減差額		前期繰越活動増減差額(12)	622,461,271	511,871,818	110,589,453
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	604,429,269	540,761,271	63,667,998
		基本金取崩額(14)			
		その他の積立金取崩額(15)	6,165,000	81,700,000	-75,535,000
		その他の積立金積立額(16)	5,312,005		5,312,005
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	605,282,264	622,461,271	-17,179,007

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円